学校だより

八が嶺薫風

令和６年６月６日
茅野市立北部中学校
校　長　千野　憲一

前期人権教育旬間スタートにあたっての校長講話(5/30)より

朝の生徒玄関や廊下ですれ違うときに、皆さんは「おはようございます」や「こんにちは」と、明るく、温かく声をかけてくれます。来校されたお客様からは「大変落ち着いた雰囲気の学校ですね。」「挨拶をしてくれてうれしかった。」と声をかけていただきました。大変うれしかったです。

「認め合い、支え合い、高め合う」を意識して生活をしていますか。まずは、認め合うために、周りの人、友達の良いところを見つけることからスタートしてみましょう。

先月の生徒総会の後の北中 Meet では、良いところ、すごいところをお互いに言い合う活動がありました。優しさをテーマにした生徒会活動、笑顔あふれる学校に向けた素晴らしい活動です。茅野市の図書館の先生方が作成している中学生向けのブックリストに、今年度は北部中学校の生徒の絵が使われています。また、3年生の修学旅行や1年生の宿泊学習に一緒に行き、皆さんのよいところ、素晴らしいところをたくさん見せていただきました。

みなさんには他にももっと良い面があると思います。ぜひ、それを見つけて、お互いの良さを認め合える学校、支え合える学校にしてほしいと思っています。

さて、今回の校長講話では、「人権を守ること」について、皆さんと一緒に考えます。

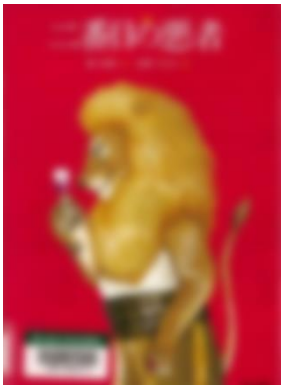
人権とは、**「すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利で、生まれながらに持つ権利」**です。では、「人権を侵害する行為、人権を傷つけてしまう行為」には、どんなものがありますか。

～隣の人と相談のあと、発表～

これは、今から 10 年前、平成 26 年度の生徒会によってつくられた「いじめ撲滅宣言」です。東階段の踊り場のところに掲げられています。北中生は、このように、以前から自分たちの力でいじめ問題に取り組むことを決意しています。すごく誇り高い宣言だと思います。

この宣言のように**「いじめをはじめ、人権を傷つける行為は許さない」**とみんな、わかっています。

「人権を傷つける行為はいけないとわかっているのに、実際には傷ついている人がいます。傷つけている人は、相手を傷つけてやろうという悪意を持っているのか。そうではないのか。あると考えたとすれば、なぜいけないのに傷つけることをやるのか。ないと考えたとすれば、なぜ傷つく人が出てしまうのか」、北中 Meet で話し合ってください。



～話し合いのあと、発表～

では、林　木林(はやし　きりん)さんの絵本**「二番目の悪者」**をこれから読みます。(これは学校の図書館にある本です。)

～「二番目の悪者」の朗読～

皆さんはこの本を読んでどんなことを感じたでしょうか。

～感想を話し合う～

どうでしょうか、うわさ話のことだけでなく、皆さんにもこの話のように、そんなつもりじゃなかったということがあるのではないでしょうか。自分は良いことをしたつもりだった。周りに合わせただけだった。みんなを盛り上げようとしただけだった。

でも、知らないうちに相手を傷つけてしまっていることがあるかもしれません。

言葉は自分の口から出てしまった後、ネットへ書き込んだ後にはもう回収ができません。
これは本当に言ってもいいのかな？やってもいいのかな？これを聞いたら、相手はどういう気持ちになるのだろう？と、いったん立ち止まって考えてから言葉にする、行動することが大切ではないでしょうか。　～最後に、クマさん広場での「広島原爆パネル展」の紹介～

生徒の皆さんの感想より(一部抜粋)

○ 何気ない行動や言葉で相手を傷つけてしまっていたら、自分には相手が傷ついたのか分からないから、こわい。自分の言葉、行動全てに責任があるというのは、大変なことだけど、自分１人ではなく、相手がいるので責任を持つことは大切。
○ 学校生活でも「うわさ」はたくさんある。「うわさ」を流す立場にならないように気をつけて生活していきたい。自分がされて嫌なこと、相手がされて嫌なことを相手にしないようにしたい。
○ 悪意のあるなしに関係なく、人を傷つけることって自分で思っている以上にしちゃうから本当に気をつけたい。傷ついた側も「傷ついた。」と言えれば相手に悪意がなかった場合に、謝れるし改善できる。
○ 「いじめている」という自覚がない人がほとんど。「これくらいでは傷つかない。」と思っているから言ってしまう。人によって感じ方は異なるので、それを互いに認め合うことが大切。「自分はこういうことを言われても平気だけど、〇〇さんはどんな気持ちになるか」など考えることが必要。
○ 冗談で言ったつもりの言葉も相手にとっては莫大な悲しさを感じる可能性もある。話すときは自分の言葉をよく考えて発言すべき。当たり前のように過ごしている日々も少し振り返って考えてみたい。
○ 自分勝手な行動をしたり、相手の気持ちを考えないでやってしまったりすると、後で自分も、相手や周りの人も傷つく。一人一人が意識しながら行動すれば変わる。まずは、自分だけでも意識して人権を守る。
○ 仮に自分が悪意を持っていなくて発した言葉を、相手は悪意があると勘違いの時もある。自分１人で考えて間違った方向に進んでしまうのではなく、他の人に聞いてみる、尋ねてみる。
○ 物事を確かめずにネットに情報を流出させて、その結果、誰かを傷つけたり、詐欺に遭ったりしまうような今の「インターネット」みたいな感じだと思った。
○ 「悪は向こうからやってくるが、真実は自分で探し求めなければならない。」という言葉が印象に残った。インターネットが普及した今の社会を生きる自分たちの周りには、数え切れないほど多くの情報があふれている。“二番目の悪者”にならないためにも、自分の目で確かめていくことが大切だと思った。
○ 動物たちはむしろ良いことをしたつもりでいるから、何をしたら相手が傷ついてしまうのかを見極めることは結構難しい。自分も人を傷つけることを言ってしまわないように、よく考えて発言したり行動したりしたい。
○ 言葉やインターネットの書き込みは一度出せたら戻せないため、言葉に出す前に自分で考えてから発言したい。「加害者」がいて、それに便乗してしまうのはもう「いじめ」になってしまう。

○ 自分からしたらキツい言い方ではないとしても、相手はそれが原因で傷ついてしまうこともある。誰にとっても心地よい言葉で話すように努力したい。
○ うわさを否定したけど、その他大勢に事実がかき消された。「僕はあの時、うわさを聞いて怖かったから伝えただけ」と他責思考なところが現代のリアルみたいに感じた。
○ うわさを信じ込んで何も悪いことをしていない相手を傷つけたりすることは、自分で何も考えないで行動しているのと一緒。自分で確かめて、この後どうするかは自分で決めてから行動した方がいい。
○ うわさを広めることに悪意はないと思うけど、自分から広めているので、やっていることは、うわさを作った人と同じ扱いになる。一度広まってしまったことは変えるのは難しい。
○ 自分も悪気はないのに誰かを傷つけてしまったことはある。軽くいじっただけのつもりでも、相手にとっては言われたくない言葉だったから。後でもっと考えて発言すれば良かったと後悔した。
○ ただのイジリだと思っていても相手はすごく傷ついているかもしれない。「こいつはイジられるのがうれしいからいい。」と言っている人がいたが、ダメなことだと思う。相手はうれしいように演技している可能性もある。イジリも一歩間違えば「いじめ」になってしまう。

…皆さん、自分事として真剣に考えてくれました。感謝です。

生徒の姿より　5月23日(木)，24日(金)の１年生の自然体験学習に同行させていただき、はじめの会で、「周りの人を「楽」にしましょう。お互いの良いところを見つけましょう。」とお願いしました。２日間、集合時に「静かに。」と呼びかける統率係やそれに応えて静かになる仲間達の姿、レクでは、自分が楽しむだけではなく、相手のことを考えた言動ができる姿、野外炊飯では、準備や片付けで自分の役割をしっかりと果たし、カレーは足りなくなってしまいましたが、ご飯もすべて完食するくらい見事な食べっぷり、そして、考古館では集中して黙々とスケッチに取り組む姿など、多くの場面で素晴らしい姿を見ることができました。友達の良いところも見つけられたとのこと。成長が楽しみな1年生たちです。